

DREAMING No.21

令和7年3月31日
長崎市立福田小学校
学校だより
校長 寺田 成広

心を満たし、夢や願いを叶える学校 ~見つめよう 認めよう~

本日令和6年度が終わります

本日3月31日(月)が令和6年度の最終日です。

18日(火)には、6年生70名が小学校を巣立ちました。1年間最上級生として下学年をリードし続けてくれた6年生は、最後の卒業証書授与式も立派な姿でした。

式辞(はなむけの言葉)では、「・・・最高学年として過ごしたこの一年は、皆さんの学年の目標『ステップアップ6年』を果たすべく、福田小のリーダーとして様々な場面でその良き力を発揮してくれました。運動会では、・・・(式辞より抜粋)」と、この1年間の6年生の活躍や学校への貢献を伝えました。

送る言葉として、「・・・、私からステップアップのキーワードを二つ送ります。一つ目は『ストレッチ』です。・・・自分の現在の力より、少しだけ目標を上げてそこに向かって励むことを表します。・・・二つ目は「つながり」です。『つながり』とは、人間が成長する上で、助けやアドバイスをくれる第三者が必要であるという事を指します。(式辞より抜粋)」と、今後の人生をますます充実させてほしいという願いを込めて語りました。頭の片隅にでもおいてもらえたらと思っています。一小一中の福田地区、今後も成長を見守り続けます。

卒業証書授与式のHP ⇒ [卒業式 | 長崎市立福田小学校](#)

24日(月)は、修了式でした。1年生から5年生までの代表者に修了証を授与しました。5名の子どもたちは、学年の代表らしく壇上でしっかりした動作で証書を受け取りました。



その後私から、担任とともに考えた【各学年の子どもたちが成長した点】のスライドを示しながら伝えました。たくさんあるのですが、今回は2点に絞りました。以下がそのスライドです。

1年生

ひらがな、カタカナ、かん字を しっかりおぼえて、おもったことを 文で かけるようになった。

じぶんたちで かんがえて、
こうどうできるように なった。

2年生

ひらがな、カタカナ、かん字を しっかりおぼえて、おもったことを 文で かけるようになった。

じぶんたちで かんがえて、
こうどうできるように なった。

3年生

新しい 学しゅうに なれて、
勉強への 取り組み方が
じょうずになった。

小音会や 見学、総合の発表会などを
とおして、
友達と きょう力する力が のびた。

4年生

話を聞くときの 集中力と、
内容を 理解する力が 高まった。

太鼓への 取組を とおして、
目標に 向かって、学級の 仲間と
協力する力が とても のびた。

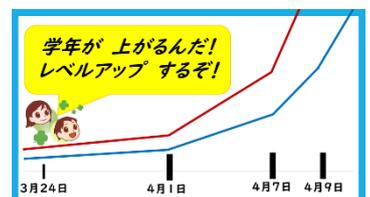
5年生

宿泊学習や 日々の 生活を とおして、
支えられていることへの 感謝の気持ち
をもち、言葉で 伝えられるようになった。

6年生の姿や委員会活動、卒業式への
取組から、学校全体のことを 考えて
行動できるように なった。

講話のもう一つの柱として、4月からの進級をふまえてさらに自分をレベルアップさせる気持ちをもってこの春休みを過ごし、4月7日に登校してほしいことを話して終わりました。子どもたちは誰もが伸びたい思いをもちています。ぜひ新年度への励ましの言葉掛けをお願いします。

成長点の自覚化は、次なる向上へ向かう動機付けとして欠かせません。保護者の皆様にも、1年の教育活動の成果として覚えておいていただけると有難いです。



児童代表の言葉は、1年渡●●●●さんと4年橋●●●●さんでした。

二人とも、1年まとめの言葉にふさわしい内容とすばらしい発表態度で、着実に成長したことが表れた代表の言葉でした。



修了式のHP ⇒ [令和6年度修了式|長崎市立福田小学校](#)

「コーチング」をご存じですか その3(最終回)

最終号となる今回は、コーチングにおける効果的な質問(問いかけ)と、効果的な伝え方についてお伝えします。

①拡大質問:答えが無限にある質問、相手が内面と対話する質問

「どんな〇年生になりたいの?」「あなたのアイデアを聞きたいです。」

②肯定質問:否定質問は考えたくない「何で頑張れないの?」「どうして時間に間に合わないの?」

肯定「どうすれば頑張れる?」「時間を守るために何ができるかな?」

③過去より未来指向の質問:前に向かって進むための問いかけ

未来「今からできることは何かな?」 過去「なぜすぐにしなかったの?」

④要望を引き出す質問

「どんなサポートがあれば助かるかな?」「今優先してほしいことは何かな?」

前回書いたように、「相手を認める」ことを前提にすると、上にあげたような質問になるのだと思います。

なお、伝えたいことを効果的に伝えるためには、ここまでも書いてきたように「日頃より相手を承認している」ことが前提です。また、これも前回までと重複する部分がありますが、「相手が自ら考えて、行動につなげる」伝え方を心がけることです。期待していることも同時に伝えるとより効果が上がります。

自分を認めてくれている人からの言葉は「ありがたい指導」として、そうでない人からの言葉は「叱られた」と受け止められます。相手にとってよりよいコーチングのために、日常からの関わりや、相手への心配りを大切だと言えそうです。

<長崎県教育センター公開講座佐藤敬子氏の講演資料より引用>

終わりにになりましたが、保護者・地域の皆様には本校の教育活動に対して温かいご理解とご協力をいただき心より感謝しております。ありがとうございました。

明日から始まる令和7年度も引き続きよろしく願いいたします。